



甲突川千本桜再生プロジェクト(素案)

千本桜が織りなす 魅力あふれる にぎわいと憩い空間の創出
～ ひと・まち・未来へつながる 桜の名所に ～



令和7年8月
鹿児島市



【表紙の写真】

出典：甲突川の桜 あなたの思い出フォト応募写真
(令和6年4月実施)

目次

第1章 はじめに	P1～P3
1-1 プロジェクトの背景と目的	P1
1-2 プロジェクトの位置づけ	P2
1-3 千本桜の歴史	P3
第2章 現状と課題	P4～P15
2-1 甲突川河畔の概況	P4
2-2 桜の樹木診断結果	P5
2-3 甲突川河畔及び周辺の現況	P6
(1) 上流エリア現況図(平田橋～南洲橋)	
(2) 中流エリア現況図(南洲橋～武之橋)	
(3) 下流エリア現況図(武之橋～天保山橋)	
2-4 市民意向調査結果	P9
2-5 課題の整理	P11
第3章 再整備のコンセプト	P16～P22
3-1 基本理念	P16
3-2 施策の体系	P17
3-3 基本施策	P18
第4章 再整備のイメージ	P23～P33
4-1 ゾーニング	P23
4-2 全エリア共通の整備方針	P24
4-3 各エリアの整備方針	P26
(1) 上流エリア基本計画図(平田橋～南洲橋)	
(2) 中流エリア基本計画図(南洲橋～武之橋)	
(3) 下流エリア基本計画図(武之橋～天保山橋)	
4-4 鳥瞰パース	P33
第5章 再整備のスケジュール	P34
第6章 今後の展開	P35～P36
参考資料(用語解説)	P37～P38

第1章 はじめに

1-1 プロジェクトの背景と目的

本プロジェクトの計画地である「甲突川左岸緑地と甲突川右岸緑地、その周辺の水辺を含む一体的な空間(以下、「甲突川河畔」という。)」は、本市の中心部にある「鹿児島中央駅地区」と「いづろ・天文館地区」の間に位置しており、春には2km以上にわたって桜が咲き誇り、市内有数のお花見スポットとして多くの市民に親しまれています。

この桜は、昭和40年代に各種団体等から約300本の寄贈を受けたほか、昭和52年から54年にかけて、「公益社団法人 鹿児島青年会議所(以下、「鹿児島 JC」という。)」が中心となり、甲突川河畔に「市民の憩いの場を作ろう」という思いのもと、様々な方々の協力を得て、「千本の桜」を植樹したことがきっかけとなっています。

しかし、この植樹活動から約50年が経過し、桜全体の老木化※1が進行しているほか、シロアリなどの病虫害被害を受け、令和5年度末時点の桜の本数は、約430本まで減少しており、このままでは、歴史ある「千本桜」の衰退や生育不良による倒木等の危険性が懸念されます。

一方、本市では、「鹿児島中央駅地区」や「いづろ・天文館地区」などの中心市街地において、「にぎわいあふれる彩り豊かなまちづくり」を推進しており、甲突川河畔においても更なるにぎわい創出が求められています。

このような状況を踏まえ、本プロジェクトでは、歴史ある千本桜の再生を行い、「市民の憩いの場」としての機能を継承し、新たな桜の名所として甲突川河畔の魅力をさらに高めるとともに、緑地空間の充実を含めた環境整備を進めることで、通年にわたるにぎわいを創出し、まち全体の活力向上へと繋げることを目的としています。



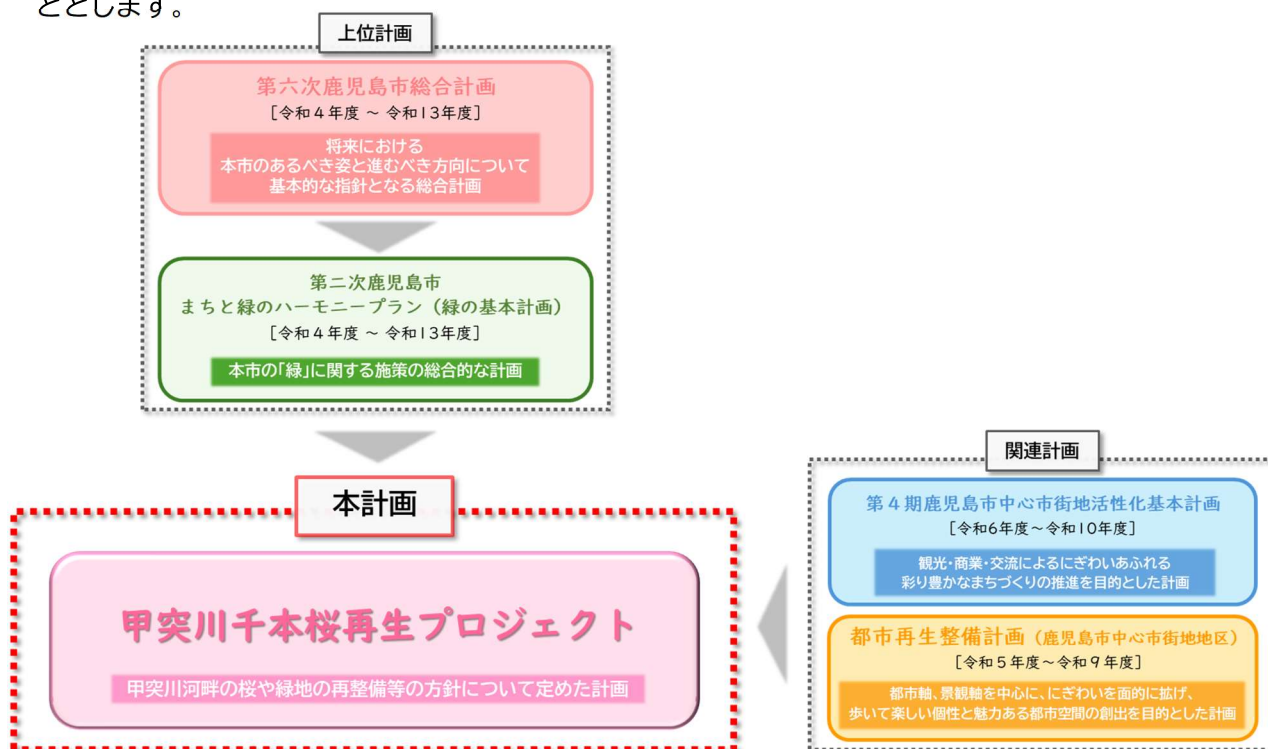
写真出典:かごしま市民のひろば 平成 25 年 3 月号

※1:樹木が年老いること。



1-2 プロジェクトの位置づけ

本プロジェクトは、上位計画である「第六次鹿児島市総合計画」や「第二次鹿児島市まちと緑のハーモニープラン」と整合を図るとともに、関連計画である「第4期鹿児島市中心市街地活性化基本計画」や「都市再生整備計画（鹿児島市中心市街地地区）」と連携を図りながら進めることとします。



第六次鹿児島市総合計画

都市像「つながる人・まち 彩りあふれる 躍動都市・かごしま」を実現するための基本目標の一つとして「自然と都市が調和した うるおいのあるまち」を掲げ、人と自然が共生し、うるおいと安らぎを感じられる環境整備に取り組むことが位置付けられています。

第二次鹿児島市まちと緑のハーモニープラン（緑の基本計画※2）

基本理念「共に創る うるおいと彩りあふれる 緑のまち・かごしま」の実現に向け、甲突川を生かした、にぎわいとうるおいが共存する都市空間の創出や観光資源としての緑地の活用に取り組むことが位置付けられています。

第4期鹿児島市中心市街地活性化基本計画

「街なかのにぎわいあふれるまちづくり」の実現に向け、街なかのにぎわい創出と回遊性の向上に資する事業の一つとして、千本桜の再生に取り組むことが位置付けられています。

都市再生整備計画（鹿児島市中心市街地地区）

都市軸、景観軸を中心に、にぎわいを面的に広げ、歩いて楽しい個性と魅力ある都市空間の創出に向け、甲突川河畔においても、新たなにぎわいや、やすらぎを創出し、居心地がよく歩きたくなる空間の創出に取り組むことが位置付けられています。

※2: 緑に関する都市の総合的な計画のこと。

1-3 千本桜の歴史

甲突川河畔の「千本桜」の成り立ちは、鹿児島 JC の活動がきっかけとなっています。

鹿児島 JC は、「明るい豊かな町づくり運動」の一環として、昭和50年に、生活排水やゴミ捨てなどにより汚れていた甲突川の清掃活動を開始しました。活動を進める中で、「甲突川河畔を市民の憩いの場にしたい」という声が高まり、52年に、甲突川河畔の高見橋から天保山橋にかけて、千本の桜を植樹する計画が立てられました。

この計画は、多くの方々の賛同を受け、数多くの桜の苗木を寄贈いただいたほか、近隣住民や小・中学生等の協力により、52年に250本、53年に350本、54年に400本、計 1,000本の植樹が進められ、「JC 千本桜」と呼ばれるようになりました。

本プロジェクトにおいても、「JC 千本桜」に込められた当時の皆様の想いを受け継ぎ、地域との連携・協働による「千本桜」の再生を推進したいと考えています。



昭和52年3月10日 JC 千本桜植樹祭



昭和53年3月2日 JC 千本桜植樹祭



昭和53年3月2日 JC 千本桜植樹祭
大分市よりミスみどり等参加



昭和54年2月21日 JC 千本桜植樹祭

写真提供：公益社団法人 鹿児島青年会議所

第2章 現状と課題

2-1 甲突川河畔の概況

甲突川河畔は、本市のお花見スポットとして長年親しまれているほか、南洲橋から望む「桜並木」や「甲突川」、そして「桜島」が生み出す眺望は、本市を代表する都市景観を形成しています。

また、高見橋から高麗橋間及びその周辺には、「西郷隆盛・従道誕生地」や「大久保利通生い立ちの地」など歴史的資源が点在しているほか、「維新ふるさとの道」として整備されており、歴史に想いを馳せながら散策を楽しむことができます。

さらに、平田橋から高見橋間では、春と秋に、苗木や盆栽などを販売する「木市」が、冬には、800年の歴史を持つ薩摩の伝統的な正月遊びである「破魔投げ」が開催されるなど、伝統的なイベントが行われています。

加えて、甲突川河畔には、桜以外にもクスノキやクロガネモチなどの樹木が植栽されており、^{※3} 緑陰^{※3}の中で散歩やジョギングを楽しむ人々や、遊具で遊ぶこどもたちの姿が見られるほか、河川では観光船やSUP^{※4}、カヤックなど水辺を活かしたアクティビティが行われており、「市民の憩いの場」としての機能も果たしています。

【緑地（都市公園）の概況】

名	称	： 甲突川左岸緑地
開設年月日	： 昭和30年4月1日	
面積	： 6.10ha	
種別	： 地区公園 ^{※5}	

名	称	： 甲突川右岸緑地
開設年月日	： 昭和33年4月1日	
面積	： 2.18ha	
種別	： 近隣公園 ^{※6}	



※3：植物によって作られる日陰のこと。

※4：Stand Up Paddleboardの略。

サーフボードより少し大きいボードの上に立ち、パドルを漕いで水面を進むハワイ発祥のスポーツのこと。

※5：主として徒歩圏内に居住する者の利用に供することを目的とする公園のこと。

※6：主として近隣に居住する者の利用に供することを目的とする公園のこと。

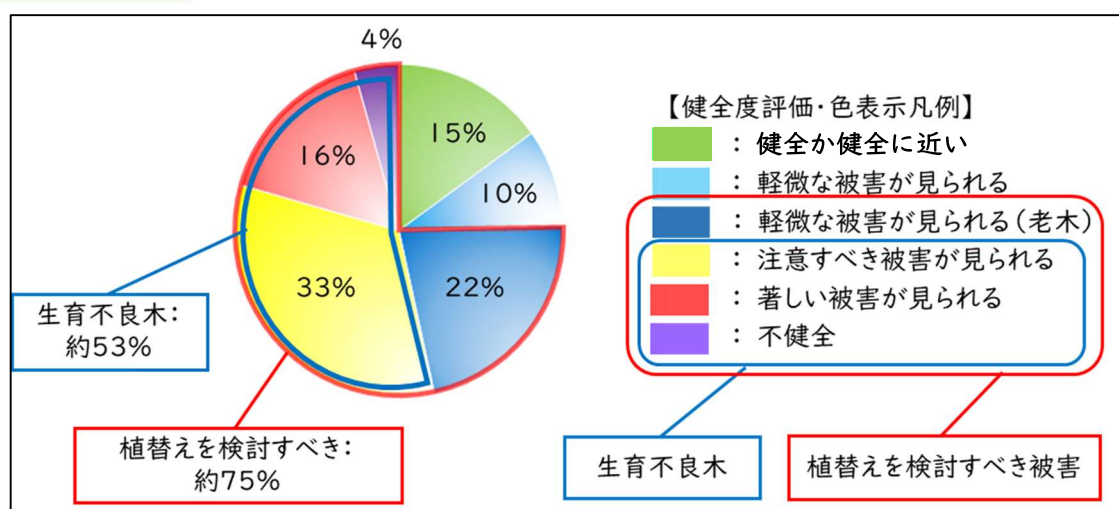
2-2 桜の樹木診断結果

桜の生育状況を把握するため、令和5年度に「樹木診断※7」を実施しました。

診断の結果、桜全体の約75%において、老木化の進行や病害虫被害等が確認され、「植替えを検討すべき状態」であることが明らかになりました。

この要因としては、植栽から年数が経過していることや生育環境・土壌環境の悪化などが考えられるため、再整備と合わせて、これらの改善が必要です。

【診断結果】



※7: 樹木の健全度等を調査・診断すること。

※8: 生長した樹木の根が地上に露出し、舗装の持ち上げ等が発生すること。

※9: 木材腐朽菌が樹木の根腐れ部分や傷口から入り込み、樹木を腐らせること。

2-3 甲突川河畔及び周辺の現況

甲突川河畔及び周辺の現況について、上流・中流・下流エリアに分け、以下に整理します。

(1) 上流エリア現況図（平田橋～南洲橋）



- 桜
- 常緑樹
- 落葉樹

②グラウンド広場における日常的な利用者数の低迷

グラウンド広場が整備されており、毎年、春と秋には「木市」、冬には「破魔投げ」が行われるなど、伝統行事が開催されていますが、イベント時以外の利用者数は少ない状況となっています。



③樹木の大き化による周辺環境への影響

クスノキの並木が見られ、緑豊かな景観や緑陰を形成している一方、大木化が進み、落ち葉の増加や公園外の越境が見られるなど、周辺環境へ影響を及ぼしています。



④加治屋町1番街区市街地再開発事業の計画

高見橋周辺では、個性と魅力ある都市空間の創出を図るため、加治屋町1番街区の再開発が計画されています。



①桜の生育不良

老木化の進行やシロアリなどの病虫害被害、幹の腐朽など、生育不良な桜が多く見られます。



幹に腐朽が入っている桜

⑥桜の生育環境の悪化

来訪者による土壌の踏みしめ(踏圧)や、狭い植栽^{ます}の影響により、根の傷みや根上がり等が発生し、桜の生育状況が悪くなっています。



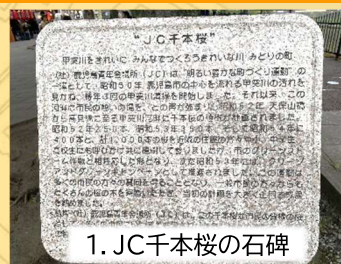
植栽^{ます}が狭く、根上がりしている様子

⑤歴史を感じられる空間の形成

高見橋から天保山橋間は、鹿児島JCが千本桜の植樹活動を行った場所であり、緑地内には当時の活動内容を記した石碑が設置されています。

また、高見橋から高麗橋間は「維新ふるさとの道」として整備されており、歴史に想いを馳せながら散策することができます。

さらに、市電通りから近く、利便性が良いことから、時折イベントが開催され、甲突川河畔の中では、来訪者数が最も多い場所となっています。



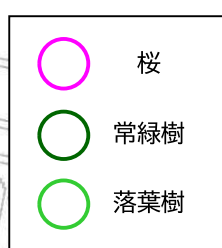
1. JC千本桜の石碑



2. 維新ふるさとの道

- 説明文凡例
- 桜など樹木に関連する事項
 - 緑地や施設に関連する事項
 - その他の事項

(2) 中流エリア現況図（南洲橋～武之橋）



⑧歴史を感じる空間の形成と樹木の生育環境の悪化

高麗橋から甲突橋間は、「維新ドラマの道」として整備され、歴史パネルが点在しており、明治維新の歴史を感じながら散策や休憩ができる場所となっています。一方、緑地内の樹木は大木化が進み、樹木同士が密になるなど、生育環境が悪化しています。



歴史パネル

⑨緑地内の遊具や東屋、ベンチなどの老朽化

桜をはじめとした様々な樹木による緑豊かな空間が広がっていますが、東屋やベンチ、園路などの老朽化、芝生の裸地化などが見られ、緑地全体において改善が必要となっています。



1. 東屋の老朽化



2. 芝生の裸地化の様子

⑦屋外プールの老朽化と短期間利用

無料の屋外プール（アシカプール）があり、夏場の7月～8月は、多くのこどもたちで賑わっています。しかし、設置から年数が経過し、施設の老朽化が進んでいるほか、夏場以外の利用がなく、年間を通じた利活用が課題となっています。



アシカプール

⑩樹木の大木化による桜の生育や景観への影響

大木化したクスノキなどの樹木が桜を圧迫し、桜の樹形や生育に影響を及ぼしています。また、これらの樹木が川沿いの桜並木を分断し、景観にも影響を及ぼしています。



1. 樹形が悪くなっている桜



2. 樹木の大木化による桜並木の分断

⑪眺望の良い憩い空間の形成と「ナポリ通り」との一体性の欠如

河川や桜島を望むオープンテラスが整備され、眺望に優れた憩い空間が広がっています。一方、本市のシンボルロードである「ナポリ通り」と隣接していますが、緑地内の樹木が大木化し、ナポリ通りとの一体性が損なわれているほか、同通りのクスノキを圧迫し、生育に影響を及ぼしています。



1. オープンテラス



2. 樹形が悪くなっているナポリ通りのクスノキ

⑫桜と緑で囲まれた憩い空間の形成

芝生の一部では裸地化が見られるものの、園路などの基盤や桜の生育状況は良好であり、憩い空間が広がっています。周辺には「シェラトン鹿児島」があり、時折、外国人観光客が緑地内を散策する姿が見られるほか、桜の開花時期には、芝生広場で多くの方々がお花見やバーベキューを楽しむ姿が見られます。



お花見時期の芝生広場

シェラトン
鹿児島

- 説明文凡例
- 桜など樹木に関連する事項
 - 緑地や施設に関連する事項
 - その他の事項

(3) 下流エリア現況図(武之橋～天保山橋)



⑬遊具や東屋、ベンチ等の老朽化

緑地内には遊具が設置され、こどもたちの楽しむ姿が見られますが、設置から年数が経過し、老朽化が進んでいるものもあります。

また、東屋やベンチなども老朽化が進んでいるほか、広場では、水はけが悪くなっている場所も見られます。



1. 遊具で遊ぶこどもたち



2. 水はけが悪い広場

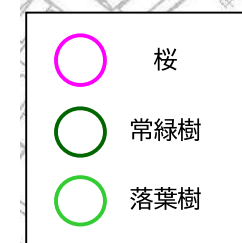
⑭桜の生育不良と生育環境の悪化

シロアリ被害や幹の腐朽など、生育不良な桜が多く見られます。

また、樹木の大木化や密植による日照不足など、生育環境の悪化も見られます。



傷んでいる桜の写真



⑮水辺を活かしたアクティビティの実施

中流～下流エリアにかけては、観光船の運航やSUP、カヤック体験など、水辺を活用したアクティビティが行われています。



観光船の様子



SUPやカヤックの様子

⑯憩い空間の形成と桜の生育不良

緑豊かな空間の中で、散歩や休憩ができる憩い空間が広がっています。一部、芝生の裸地化や東屋・ベンチ等の老朽化が見られるものの、園路などの基盤は近年整備されており、概ね良好な状態です。

一方、桜の生育状況は、シロアリ被害や腐朽が見られるなど、注意すべき状態のものも多く見受けられます。



整備された園路

⑰こどもたちが集まる遊び場の形成

日中には散歩やジョギングを楽しんだり、木陰で休憩したりする人々の姿が見られます。夕方になると、こどもたちが集まり、元気に遊ぶ様子が見られます。



こどもたちが集まっている様子

2-4 市民意向調査結果

本プロジェクトを策定する上で、現在の甲突川河畔の利用状況や再整備に対する市民の方々の意向を把握するため、令和6年度に市民意向調査を行いました。

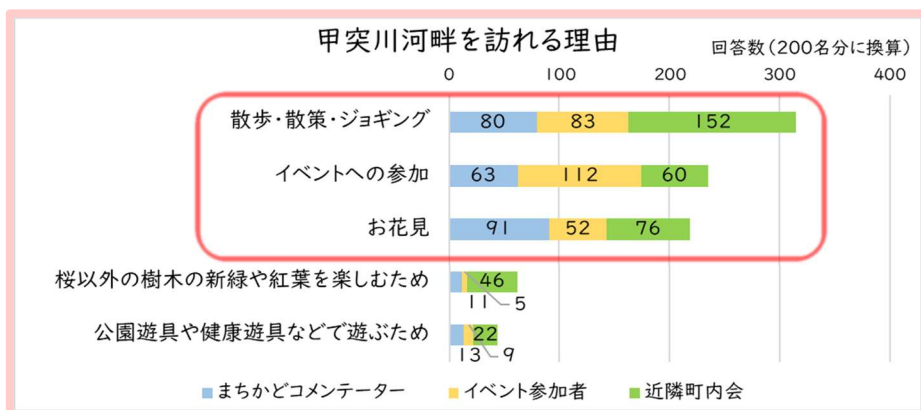
調査対象は、幅広く意見を徴収するため、「まちかどコメンテーター※10の登録者（回答者数：433名）」、「甲突川河畔で開催されたイベント参加者（回答者数：241名）」、「甲突川河畔の近隣町内会加入者（回答者数：259名）」といたしました。以下に調査結果を示します。

なお、回答数の違いによる偏りをなくするため、各調査対象の回答結果は200名分に換算して表示しています。

【調査結果】

①甲突川河畔を訪れる主な理由

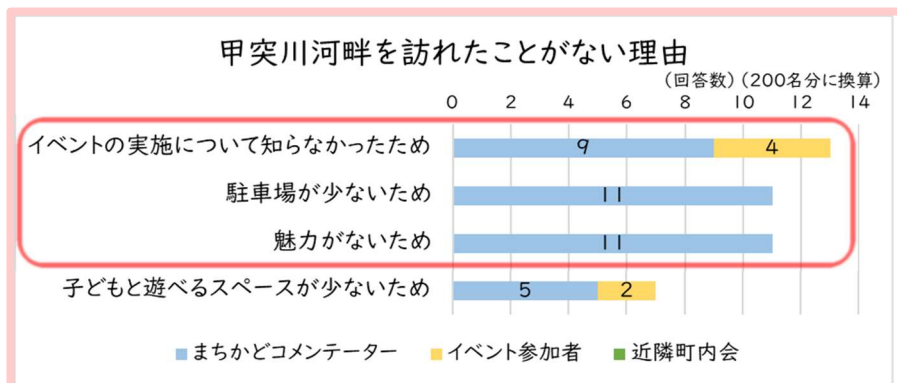
「散歩・散策・ジョギング」が最も多く、次いで、「イベントへの参加」、「お花見」という結果となりました。日常的な利用から、お花見、各種イベントへの参加まで、幅広い目的で利用されていることがうかがえます。



②甲突川河畔を訪れたことがない理由

「イベントの実施について知らなかったため」が最も多く、次いで、「駐車場が少ないため」、「魅力がないため」という結果となりました。

来訪者数をさらに増やすためには、利便性の向上に加え、甲突川河畔の更なる魅力向上等が必要だと考えられます。

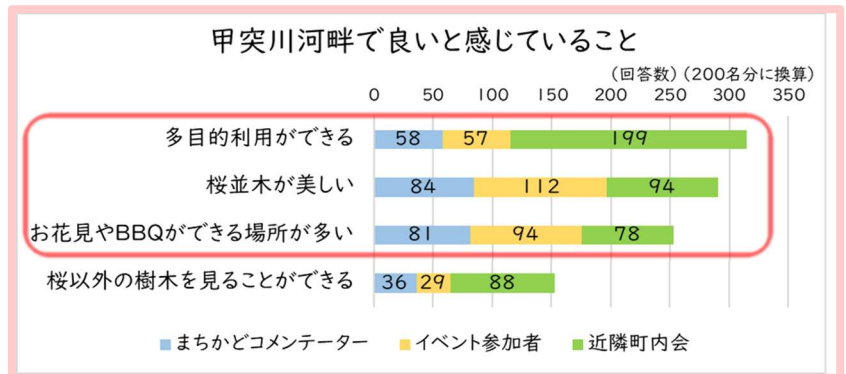


※10:市民の意見や提言を把握し、市政運営の参考とするアンケート調査のこと。

③現在の甲突川河畔で良いと感じていること

「多目的利用ができる」が最も多く、次いで「桜並木が美しい」、「お花見や BBQ ができる場所が多い」という結果となりました。

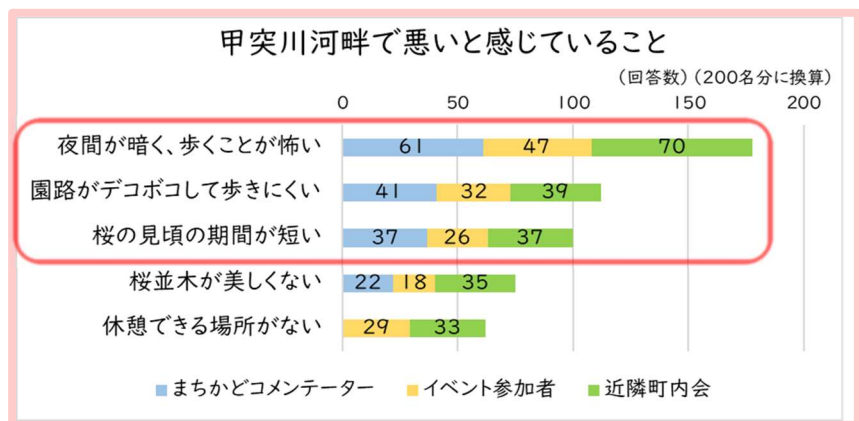
お花見などの季節行事に加え、様々な用途で利用できる点に魅力を感じていることがうかがえます。



④現在の甲突川河畔で悪いと感じていること

「夜間が暗く、歩くことが怖い」が最も多く、次いで、「園路がデコボコして歩きにくい」、「桜の見頃の期間が短い」、「桜並木が美しくない」という結果となりました。

桜の魅力不足に加え、夜間照明の不足や園路の歩きにくさに不満を感じていることがうかがえます。

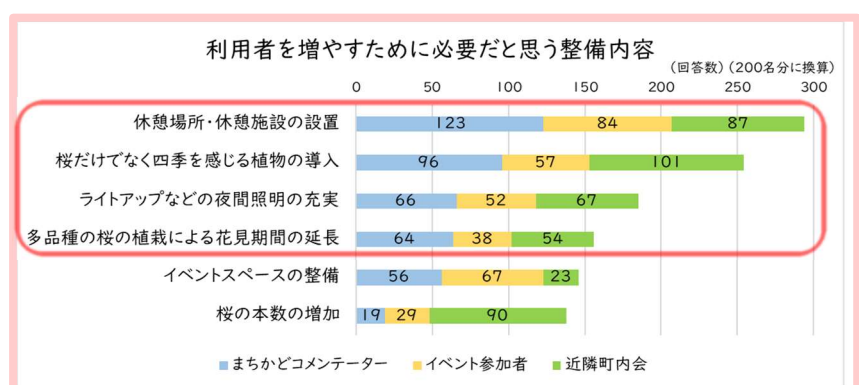


⑤利用者を増やすために必要だと思う整備内容について

「休憩場所・休憩施設の設置」が最も多く、次いで「桜だけでなく四季を感じる植物の導入」、「ライトアップなど夜間照明の充実」、「多品種の桜の植栽による花見期間の延長」という結果となりました。

また、自由意見として「駐車場の整備」を望む意見も多く挙がっていました。

今後は、桜の魅力向上や緑地の整備に加え、利便性向上への取組も必要であると考えられます。



2-5 課題の整理

現況を踏まえ、以下の通り、5つの課題に分け整理します。

課題1 桜の衰退、桜の名所としての魅力低下

課題1-1 桜の老木化や病害虫被害、ソメイヨシノの品種特性

本市の気候や土壌条件に適した維持管理方法が確立されておらず、桜の保全を目的とした十分な管理が行われていないため、老木化や開花状況の悪化、幹や枝の腐朽、シロアリやキノコなどによる病害虫被害が発生し、桜の衰退が見られます。

また、現在、主要品種として植栽されている「ソメイヨシノ」は、花色が美しく、桜の中で最も親しまれている品種ですが、一方で、腐朽が入りやすいほか、桜の代表的な病気の一つである「てんぐ巣病※11」にかかりやすいといった欠点も抱えています。

桜の開花状況の変化(同地点を撮影)

● 約 10 年前の満開時の桜(2014年4月撮影)



● 昨年の満開時の桜(2024年4月撮影)



課題1-2 桜の生育環境の悪化

植栽樹が狭い場所や来訪者による土壌の踏みしめ(踏圧)により、土が固くなり、根が地中に伸びていけず根上がりしている場所があるなど、桜の生育環境が悪化しています。



植栽樹が狭く、根上がりしている桜

課題1-3 桜を惹き立てる魅力的な空間の不足

甲突川河畔は、桜島や甲突川との美しい景観を有し、観光名所として高いポテンシャルを有していますが、他都市で見られるような、水面に映る桜や桜のトンネルなど、桜の魅力を活かした空間づくりが十分に行われておらず、その魅力を発揮できていない状況です。

※11:カビの一種が原因で発生する伝染病のこと。

課題2 大木化した樹木による様々な問題の発生

課題 2-1 樹木の大木化による緑地内や周辺環境への影響

クスノキやイチヨウなど緑地内にある樹木は、四季折々の景観や夏場の緑陰を形成する一方で、大木化により樹木同士が密接し生育に影響を及ぼしている場所、通行に支障が出ている場所、夜間照明が遮られ、暗い印象を与えている場所が見られるなど、様々な問題が発生しています。

また、近隣住民からは、「落ち葉が大量に発生し困っている」、「木が大きくなり、台風などによる倒木が怖い」といった意見も寄せられています。



大木化した樹木



大木化した樹木の根が
ブロックを押し上げている様子

課題2-2 桜への被圧^{ひあつ}※12や桜並木の分断

大木化した樹木による被圧の影響で、桜の樹形の乱れや日照不足が生じており、生育環境が悪化しています。

また、景観スポットにおいても、大木化した樹木により、桜並木が分断され、魅力的な景観が損なわれています。



クスノキに被圧され、樹形が乱れている桜



大木化した樹木による桜並木の分断

※12:周囲の優勢な樹木に圧迫されること。

課題3 年間を通じた魅力的なにぎわい空間の不足

課題3-1 花見時期やイベント時以外の利用者数の低迷

お花見時期やイベント時には、幅広い世代の人々が訪れ、活気あふれる空間となりますが、その時期以外は、散歩やジョギングといった日常的な利用が中心となっています。

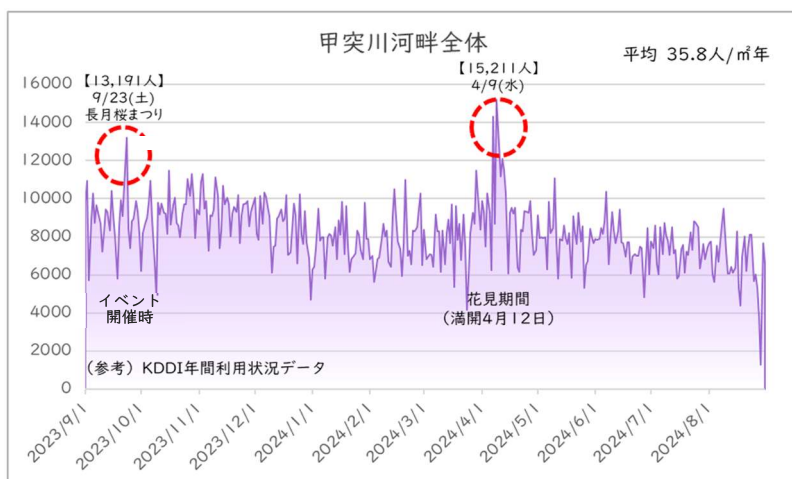


図1: 甲突川河畔への年間来訪者推移(推定値)

課題3-2 周辺の各にぎわい拠点間との回遊性の不足

「鹿児島中央駅地区」と「いづろ・天文館地区」、
「甲突川河畔」の年間来訪者数を比較すると、甲突川河畔への来訪者数は非常に少ないことがわかります。(図2参照)

また、各拠点間の年間周遊者数の割合を比較すると、甲突川河畔への周遊率は、「中央駅地区」と「いづろ・天文館地区」間の周遊率に比べて、非常に低く、甲突川河畔を目的とした回遊性が低いことがわかります。(表1参照)

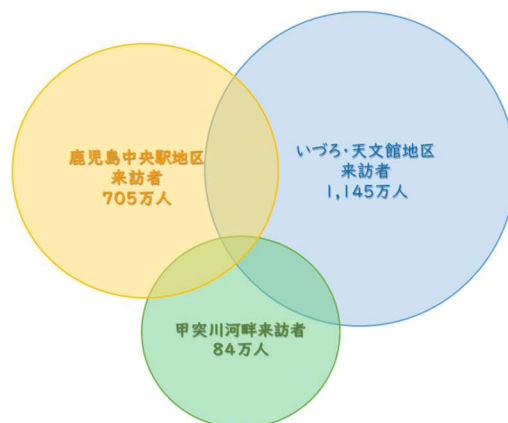


図2: 各にぎわい拠点における年間来訪者数(推定値)

出典: 技研商事インターナショナル「KDDI Location Analyzer」
au スマートフォンユーザーのうち個別同意を得たユーザーを対象に、個人を特定できない処理を行って集計しています。

表1: 各拠点間における年間周遊率(推定値)

周遊率(①/②)		①		
		「鹿児島中央駅地区来訪者」 +「いづろ・天文館地区来訪者」 99万人	「鹿児島中央駅地区来訪者」 +「甲突川河畔来訪者」 6万人	「いづろ・天文館地区来訪者」 +「甲突川河畔来訪者」 12万人
②	「鹿児島中央駅地区来訪者」 705万人	14.0%	0.85%	—
	「いづろ・天文館地区来訪者」 1,145万人	8.6%	—	1.04%
	「甲突川河畔来訪者」 84万人	—	7.1%	14.2%

課題4 憩い空間としての快適性の低下

課題4-1 遊具や施設、園路などの老朽化

こども向けの遊具や休憩施設(ベンチ・東屋)やトイレ、園路などは、設置から年数が経過し、老朽化が進んでいる場所が見られます。

また、自転車と歩行者用の園路が並走し、接触事故等が懸念される場所もあります。



老朽化した遊具やベンチ

課題 4-2 駐車場や夜間照明の不足

緑地内に駐車場が少ないことから、車でへの来訪を希望する子育て世代や遠方からの来訪者にとっては、利便性が低い場所となっています。

(※令和6年度に実施した市民意向調査の自由意見においても、「駐車場が少ないため、甲突川への来訪を敬遠している」と回答した方が一定数存在することがわかりました。)

また、公園灯の不足や大木化した樹木による照明の遮蔽により、夜間の視認性が低下している場所も確認されています。

(※市民意向調査においても、「夜間照明の整備」が市民ニーズの高い整備項目の一つとして、挙げられていました。)



駐車場(イメージ)



夜間の甲突川河畔の様子

課題 4-3 こどもたちが楽しめる遊び場の不足

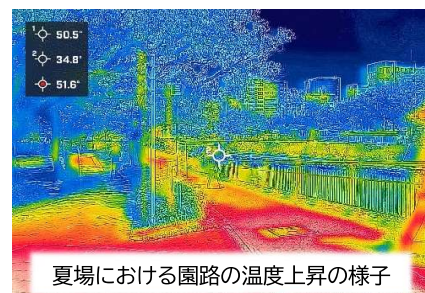
緑地の下流側(松方橋から天保山橋間)周辺には、複合遊具を備えた公園が少なく、緑地内にも遊具は設置されているものの、個々に点在しており、「こどもたちの遊び場」としての空間整備が十分に図られていない状況です。



点在する遊具で遊ぶこどもたち

課題 4-4 地球温暖化による快適な憩い空間の阻害

地球温暖化等の影響により、夏場の緑陰の無い場所では、園路の表面温度が50℃を超えることもあり、快適な憩い空間が確保されていない場所も見られます。



夏場における園路の温度上昇の様子

課題5 千本桜を守り育てる取組の不足

課題 5-1 持続可能な維持管理体制の不足

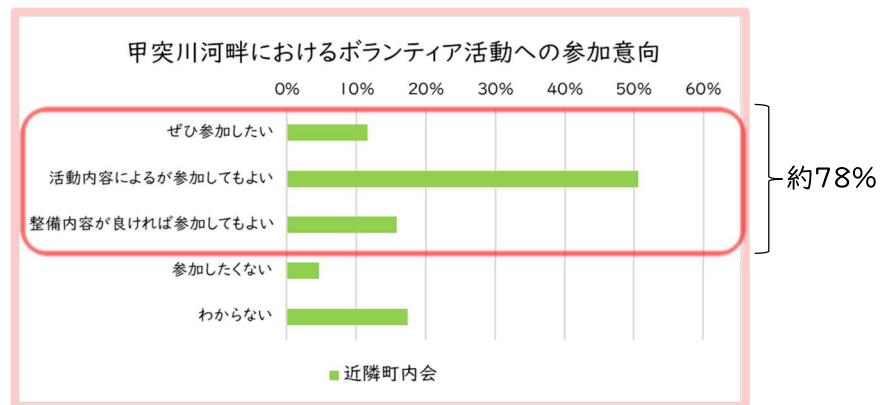
現在、緑地内の樹木管理は、造園事業者等に委託していますが、厳しい財政状況の中で、維持管理費は減少しており、十分な維持管理を行うことが困難な状況となっています。

また、今後想定される少子高齢化や人口減少等に伴い、財源面・人材面での制約はさらに高まることが予想されます。

そのような中、他都市では、継続的な維持管理の実現に向けて、行政による対応に加え、「桜守活動^{※13}」と呼ばれるボランティア活動を推進するなど、市民や事業者等との協働による取組が展開されています。

本市においても、こうした協働による取組の可能性を探るため、甲突川河畔におけるボランティア活動への参加について、近隣町内会を対象に調査を実施した結果、約78%の住民が参加の意向を示していることがわかりました。

こうした住民意欲を踏まえ、今後は行政だけでなく、地域との連携をより一層強化し、市民や事業者等との協働による持続可能な維持管理体制の構築を進めていくことが重要な課題となっています。



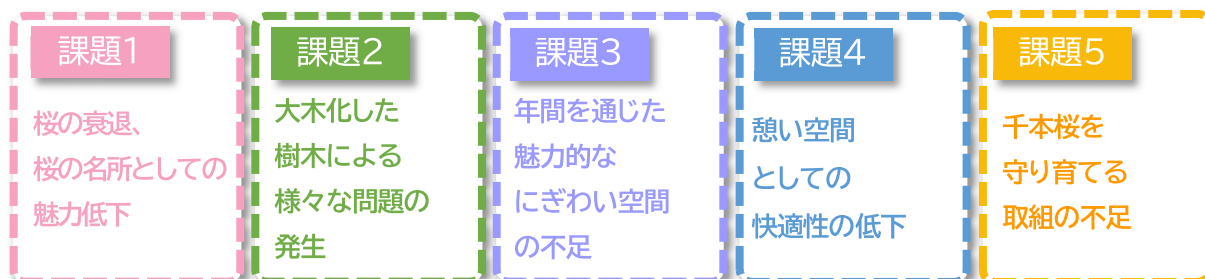
市民との協働による活動のイメージ

※13:桜の維持・保全を目的として、地域住民が施肥や清掃、病害虫対策などを行うボランティア活動のこと。

第3章 再整備のコンセプト

3—1 基本理念

課題を踏まえ、再整備の方向性を定めるため、以下の基本理念を設定します。



基本理念

**千本桜が織りなす
魅力あふれる にぎわいと憩い空間の創出**
～ひと・まち・未来へつながる 桜の名所に～

千本桜の再生を行い、新たな桜の名所として、将来にわたり魅力的な空間を創出するとともに、園路整備や新たなにぎわい施設の整備など緑地の整備を進め、活気あふれるにぎわい空間や心休まる憩い空間を創出することで、甲突川河畔を軸に人々の回遊性を向上させ、まち全体への活力向上へ繋げることを目指します。



3—2 施策の体系



3—3 基本施策

各基本施策の具体的な内容を以下に示します。

【施策1】 老木化が進行した桜や生育不良な桜の植替

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

11 持続可能な
都市づくり

13 気候変動に
適応する

15 持続可能な
消費と生産

老木化が進行した桜や生育不良と診断された桜については、倒木などの危険性があるため、必要に応じて植替を実施し、緑地内の安全性を確保するとともに、桜並木としての魅力を創出します。



幹が傷んでいる桜



キノコの被害を受けている桜

【施策2】 ソメイヨシノに代わる新たな桜の品種の導入

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

11 持続可能な
都市づくり

13 気候変動に
適応する

15 持続可能な
消費と生産

ソメイヨシノの品種特性を考慮し、樹木の専門機関等の意見を踏まえ、ソメイヨシノと比較し、病気や腐朽に強い他品種の導入を検討します。



てんぐ巣病の写真



ソメイヨシノ

写真提供：(公財)日本花の会

【施策3】 河川空間や眺望を活かした桜の再配置と充実

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

11 持続可能な
都市づくり

13 気候変動に
適応する

15 持続可能な
消費と生産

桜の植栽本数を増やし、「千本桜」のイメージにふさわしい桜の充実を図るとともに、河川に枝を伸ばし護岸を覆う水面桜や桜のトンネルなど桜の魅力を感じられる「桜スポット」を整備するほか、桜島・甲突川との景観を意識した桜の再配置を行い、甲突川河畔の立地を活かした桜の演出を充実させ、魅力的な空間を整備します。



桜のトンネルのイメージ



水面桜のイメージ

【施策4】 開花時期の異なる様々な品種の桜の導入



開花期の異なる様々な品種の桜を導入し、早春から晩春までの長期間において、お花見を楽しめる魅力的な空間を演出します。

桜の品種イメージ

2月上旬～3月中旬咲き



カワツザクラ

ダンリュウザクラ



イズノドリコ

タイリョウザクラ

3月中旬～4月上旬咲き



ヨウコウ

ソメイヨシノ (既存)



ジンダイアケボノ

4月上旬～中旬咲き



イチヨウ

カンザン



ギョイコウ

マイヒメ

写真提供(一部):(公財)日本花の会

※記載の品種はあくまで参考例であり、導入する品種については今後の検討を踏まえ、選定いたします。

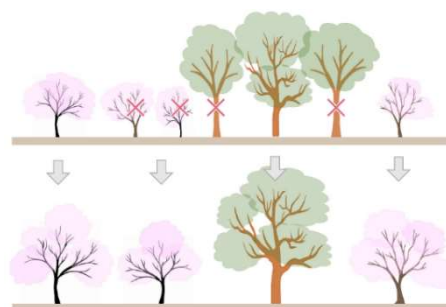
【施策5】 桜をはじめとした 樹木が健全に育つための環境整備



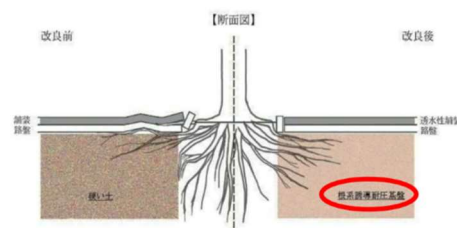
○生育不良となった樹木や密植状態の樹木、大木化した樹木や健全な生育を妨げる樹木については、必要に応じて間引き※14や再配置を行い、樹木の健全な生育を促すとともに、生育環境の改善に努めます。

○桜の健全な成長に重要な植栽基盤については、土壌診断の結果に基づき、定期的に土壌改良を行います。

また、植栽枠の拡幅を行い、根の成長を促すとともに、踏圧対策として、生育初期には囲い杭を設置するほか、舗装下へ根系誘導耐圧基盤※15を設置するなど、桜にとって快適な生育環境の確保に努めます。



樹木の間引きの様子



根系誘導耐圧基盤のイメージ

出典:街路樹管理マニュアル(国土交通省)

※14:樹木の密度管理のために行う樹木の伐採作業のこと。

※15:舗装下でも根の健全な生育を可能にする植栽基盤のこと。

【施策 6】 民間活力導入の検討



○利便性や緑地空間の質の向上、にぎわい形成や交流促進を図るため、PPP※¹⁶やPark-PFI※¹⁷などの制度を活用した民間活力の導入を検討します。

○隣接地で計画されている「加治屋町1番街区市街地再開発事業」と連携を図り、更なるにぎわい空間の創出を図ります。



Park-PFI 制度を活用して設置された
カフェレストラン



加治屋町1番街区市街地再開発事業

【施策 7】 いつでも訪れたいくなる高質空間の創出



○いつでも訪れたいくなる空間の創出を目指し、居心地が良く魅力的な高質空間の整備や、日常利用に加え、多様なイベントの開催が可能なオープンスペースの整備等を検討します。
また、イチヨウやアジサイ、サルスベリなど四季の移ろいを感じられる植栽演出を行い、年間を通じて魅力的な空間の創出を図ります。

○関係機関や事業者等と連携し、河川空間や水辺を活用したアクティビティとの連携強化に向けた取組を検討します。



日常やイベントでも活用できるオープンスペース



水辺を活用したアクティビティの様子

※16:Public Private Partnership の略。
公共施設などの建設等を行政と民間が連携して行い、
効率化等を図るもの。

※17:Park-Private Finance Initiative の略。
公園に民間の優良な投資を誘導し、公園管理者の財政負担を軽減しつつ、公園の質の向上、利用者の利便性の向上等を図る新たな整備・管理手法のこと。

【施策 8】 利用者ニーズや安全性に配慮した 緑地の整備

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



○老朽化した園路や、ベンチ・東屋などの休憩施設の再整備・増設を行うほか、駐車場の整備を検討し、安全性や利便性の確保に努めるとともに、快適空間の創出を図ります。

○夜間照明の整備を進め、安全性の向上に努めるとともに、桜のライトアップや園路上のフットライトなどの演出照明の整備を検討し、夜間景観の充実に図ります。

○老朽化した遊具を撤去するとともに、新たな遊具を整備し、こどもたちの遊び場空間を創出します。また、インクルーシブな遊具※18の導入を検討し、誰もが楽しめる遊び場空間の創出を目指します。



夜間景観の充実

(出典：甲突川の桜 あなたの思い出フォト応募写真)



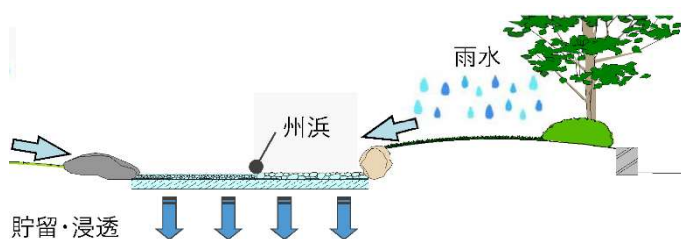
遊具の整備

【施策 9】 地球温暖化などの気候変動への対応

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

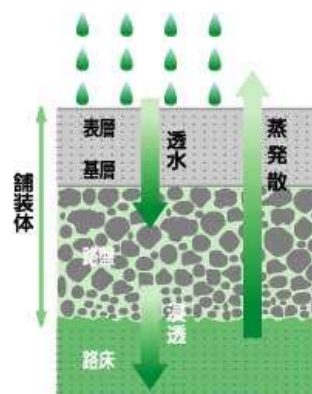


○地球温暖化などの気候変動への対応として、桜の植替により、CO₂ 吸収機能を向上させるほか、雨水を一時的に貯留し、雨水の流出抑制やヒートアイランド現象※19の緩和などに寄与する^{あめにわ}レインガーデン(雨庭)※20や透水性舗装※21の導入を進め、グリーンインフラ※22の推進を図ります。



レインガーデン(雨庭)のイメージ

引用:雨庭とは(国土交通省)



透水性舗装した園路のイメージ

引用:取り組み例～透水性舗装の採用(鹿児島県)

※18:障がいの有無や国籍などに関わらず、誰もが一緒に遊べる遊具のこと。

※19:都市部の気温が郊外と比較し高くなる現象のこと。

※20:雨水を貯留し、ゆっくりと地中に浸透させる植栽空間のこと。

※21:雨水を浸透させる構造をした舗装のこと。

※22:自然環境が有する機能を社会の課題解決に活用する考え方。

【施策 10】 守り育てる千本桜の維持管理・保全方法の検討

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



「千本桜」を再生し、守り育て、次世代へ引き継ぐための取組として、本市の気候風土や土壌環境等に適した維持管理の方法や保全方法について検討します。



機器を使った樹木診断の様子

【施策 11】 間引きした樹木の有効活用の推進

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



間引きした樹木の一部は、樹木名板や木製ベンチなど木材製品の材料として利活用を検討し、資源の有効活用を図ります。



樹木名板



剪定枝を活用した木材製品

【施策 12】 市民や事業者等との協働による千本桜の継承、千本桜や甲突川河畔への愛着醸成に資する取組の推進

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



○継続的な維持管理を実現していくため、市民や事業者等との協働による樹木管理やボランティア活動など、地域で参画しやすい仕組みづくりを検討します。

また、財源確保への取組として、ガバメントクラウドファンディング※23や桜オーナー制度※24等の活用を検討し、千本桜を次世代へと継承するための持続的な取組を推進します。



地域との協働による桜の現地確認の様子

○千本桜や甲突川河畔への興味・関心を高め、より親しみ愛される場所として次世代へと継承するため、「桜守活動」や「千本桜・甲突川河畔に関する普及啓発活動」などを検討し、専門機関や関係団体等と連携を図りながら、愛着を醸成する取組を推進します。

※23:自治体が抱える問題解決等のため、寄附金の使い道を具体的にプロジェクト化し、共感した方々から寄附を募る仕組みのこと。

※24:自治体等が管理する桜の木に対して、個人や団体が「オーナー」として、桜の植栽等に要する費用の一部を負担し、桜の成長を見守る制度のこと。

第4章 再整備のイメージ

4-1 ゾーニング

基本方針や基本施策を踏まえ、ゾーニングを以下の通り設定します。

さくら舞う にぎわい交流ゾーン

◇ひらひらと舞う桜の中で、
人々が集い、活気あふれるにぎわい空間へ

イベントなどが開催できる空間は確保しつつ、新たに、桜広場や桜のトンネルなどの「桜スポット」を整備するほか、カフェなどの集客施設等の整備を含めた民間活力の導入を検討し、年間を通じて多くの人々で賑わう“活気あふれるにぎわい空間”の創出を目指します。



さくら彩る 魅力アップゾーン

◇現在の魅力を活かし、桜とともに、より魅力的な空間へ

「維新ふるさとの道」などの歴史的空間を活かしつつ、「千本桜メイン空間」として桜で彩る空間を創出するほか、シンボルロードである「ナポリ通り」との一体的活用を図るため、緑地内に「オープンスペース」を整備し、“より魅力的な空間”の創出を目指します。



さくらとみどりの 憩いゾーン

◇桜や緑に囲まれた、ゆったり過ごせる憩いの空間へ

既存の緑地風景を活かしつつ、憩いと魅力を兼ね備えた高質空間を整備し、散歩や散策、木陰での休憩をしたくなるような“憩い空間”の創出を目指します。



さくらと遊びの わくわくゾーン

◇桜の中で、誰もがわくわく楽しめるアクティビティ空間へ

桜の整備に合わせ、こども向け遊具や大人向けの健康遊具、親水施設などの「アクティビティ関連施設」の整備を検討し、桜の中で、誰もがわくわく楽しめる“アクティビティ空間”の創出を目指します。

なお、整備にあたっては、民間活力の導入も視野に入れ、検討を進めます。



4-2 全エリア共通の整備方針

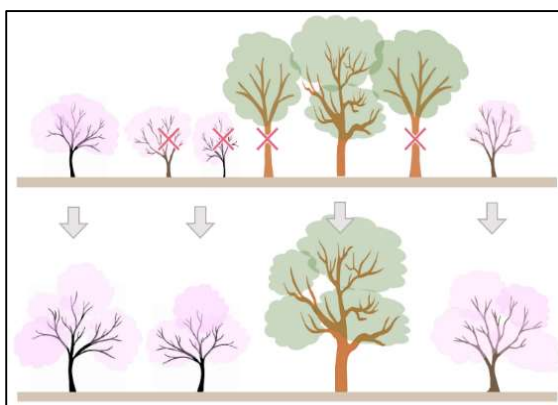
全エリアにおける主な整備方針を以下に示します。

■桜をはじめとした樹木の生育環境改善に関する整備

1. 老木化が進行した桜や生育不良な桜は、必要に応じ、植替を行います。
2. 生育環境に影響を与える樹木は、必要に応じ、間引きを行います。
3. 土壌診断を実施し、診断結果に基づき適切な土壌改良を行います。
4. 囲い杭、根系誘導耐圧基盤、マルチング※25などの施工を検討し、踏圧による影響を軽減するための対策を講じます。



土壌診断の様子



樹木の間引きの様子

■桜の配植に関する整備

1. 桜の成長を踏まえ、適正な間隔(概ね6～8m)で植栽を行います。
2. 整備時に生育良好な既存の桜はそのまま活かし、その後の生育状況に応じて、更新を行います。
3. 桜の植栽本数を増やし、桜の充実を図るとともに、景観を意識した再配置を行い、特色ある魅力的な桜の空間を演出します。

■桜の品種に関する整備

1. 現在の主要品種であるソメイヨシノの品種特性を踏まえ、専門機関や関係機関に意見を伺いながら、他品種への転換を検討します。
2. 上流から下流にかけて、開花時期が異なる品種を配植し、長期間お花見を楽しめる空間を演出します。(次ページの「桜の品種マップ」もご覧ください)
3. 整備時に、生育良好な既存のソメイヨシノはそのまま活かし、その後の生育状況に応じ、品種の更新を行います。

※25:踏圧や水分蒸発の防止等のため、樹木の根元をマルチとよばれる資材の層で覆うこと。

桜の品種マップ



※記載の品種はあくまで参考例であり、導入する品種については今後の検討を踏まえ、選定いたします。

四季を彩る植物の植栽

イチヨウなど四季を彩る既存樹は活かしながら、新たにアジサイやサルスベリといった四季を彩る植物を要所に配置するとともに、^{あめにわ}レインガーデン(雨庭)の設置を検討し、年間を通じて魅力的な空間の創出を図ります。



夜間照明や園路、休憩施設の整備

- ・夜間照明やベンチ・東屋などの休憩施設については、必要に応じて、再整備・増設を行い、快適性の向上に努めます。
- ・老朽化した園路については、夏場の快適性向上も考慮し、透水性舗装などの導入も検討しながら、快適環境の整備に努めます。



4-3 各エリアの整備方針

全エリアを上流・中流・下流の3区分に分け、各エリアにおける主な整備方針及び整備後の樹木配置について、基本計画図に示します。

(1) 上流エリア基本計画図（平田橋～南洲橋）



イメージパース I



イメージパース II



(2)中流エリア基本計画図（南洲橋～武之橋）



- 桜 } 既存樹
 - 常緑樹 } 既存樹
 - 落葉樹 } 既存樹
 - 桜 } 新植
- ※成長後の葉張り(葉の広がり)を想定して記載しています。

- 説明文凡例
- 桜など樹木に関連する事項
 - 緑地や施設に関連する事項

④アシカプールの代替施設の検討

老朽化しているアシカプールの代替として、通年利用が見込める施設等の整備を検討します。

⑥憩いと魅力を兼ね備えた高質空間の整備

この区間については、抜本的な基盤整備が必要であることから、桜の魅力を惹き立てる平板舗装を行い、広々とした空間を創出するとともに、桜の下を散策できる新たな園路の整備を行い、憩いと魅力を兼ね備えた高質空間を創出します。



⑤桜スポットの整備

現在の広場としての機能を維持しつつ、桜広場としてお花見を楽しめる滞留空間の創出を図ります。



⑦オープンスペースの整備

シンボルロードである「ナポリ通り」のクスノキの成長を促すため、緑地内の樹木の間引きを行い、生育環境の改善を図ります。
また、空いたスペースを活用し、「ナポリ通り」と甲突川河畔との一体的な活用空間として、この場所にオープンスペースを整備し、にぎわいの創出を図ります。



イメージパスⅣ

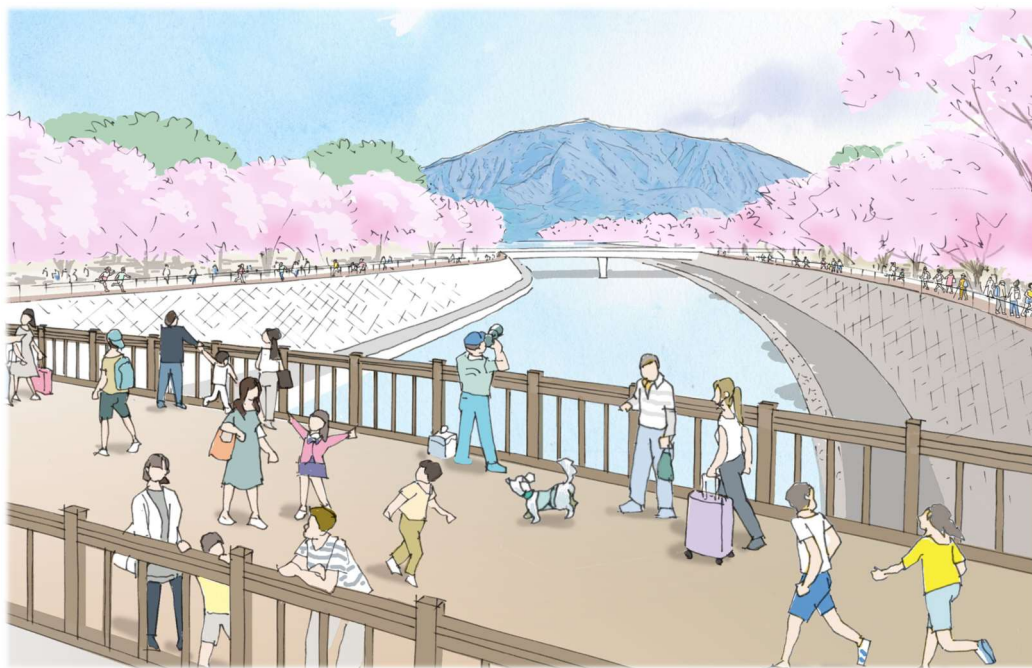
イメージパスⅢ

イメージパスⅤ

0 20 40 60 80 100m

※各種図面・計画内容は、今後の進捗状況により、変更等が生じる場合がございます。

イメージパースⅢ



イメージパースⅣ



イメージパースV



(3)下流エリア基本計画図（武之橋～天保山橋）



- 桜
 - 常緑樹
 - 落葉樹
 - 桜
- 既存樹
- 新植
- ※成長後の葉張り(葉の広がり)を想定して記載しています。

- 説明文凡例
- 桜など樹木に関連する事項
- 緑地や施設に関連する事項

⑧誰もが楽しめるアクティビティ空間の整備

インクルーシブな遊具をはじめとしたこども向けの遊具や、大人向けの健康遊具に加え、アシカプール(中流域)の代替親水施設として「じゃぶじゃぶ池」などの「アクティビティ関連施設」の整備を進めるほか、利便性の向上を図るため、有料駐車場の整備を検討し、誰もがわくわく楽しめる“アクティビティ空間”の創出を目指します。

なお、整備にあたっては、民間活力の導入も視野に入れながら、検討を進めます。



じゃぶじゃぶ池



インクルーシブな遊具

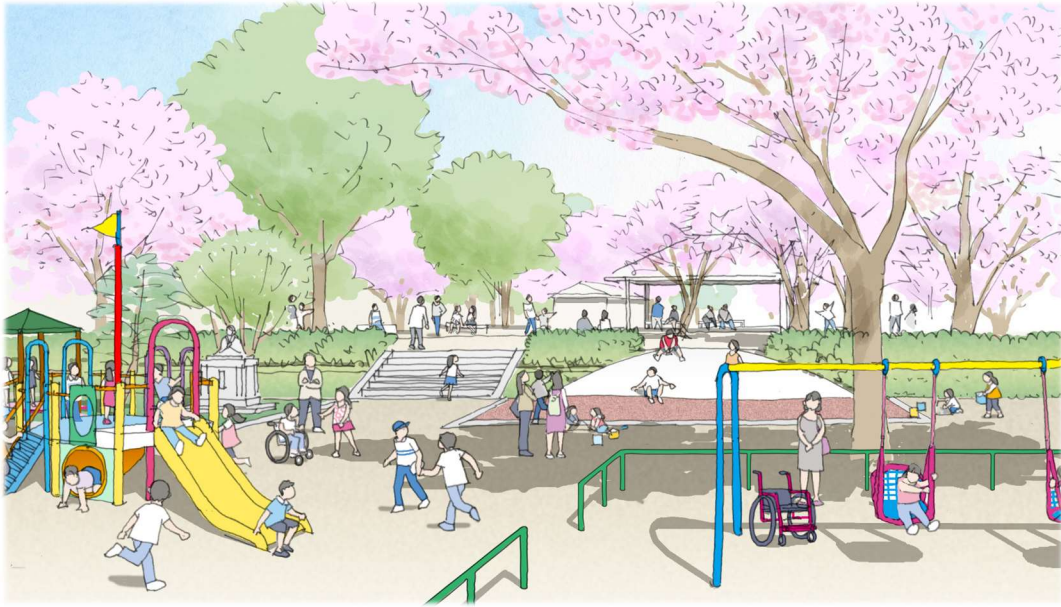


⑨桜スポットの整備

既存の風景や基盤はそのまま活かしつつ、全国でも珍しい八重桜の並木道を整備し、桜を堪能できる新たな魅力を兼ね備えた滞留空間を創出します。



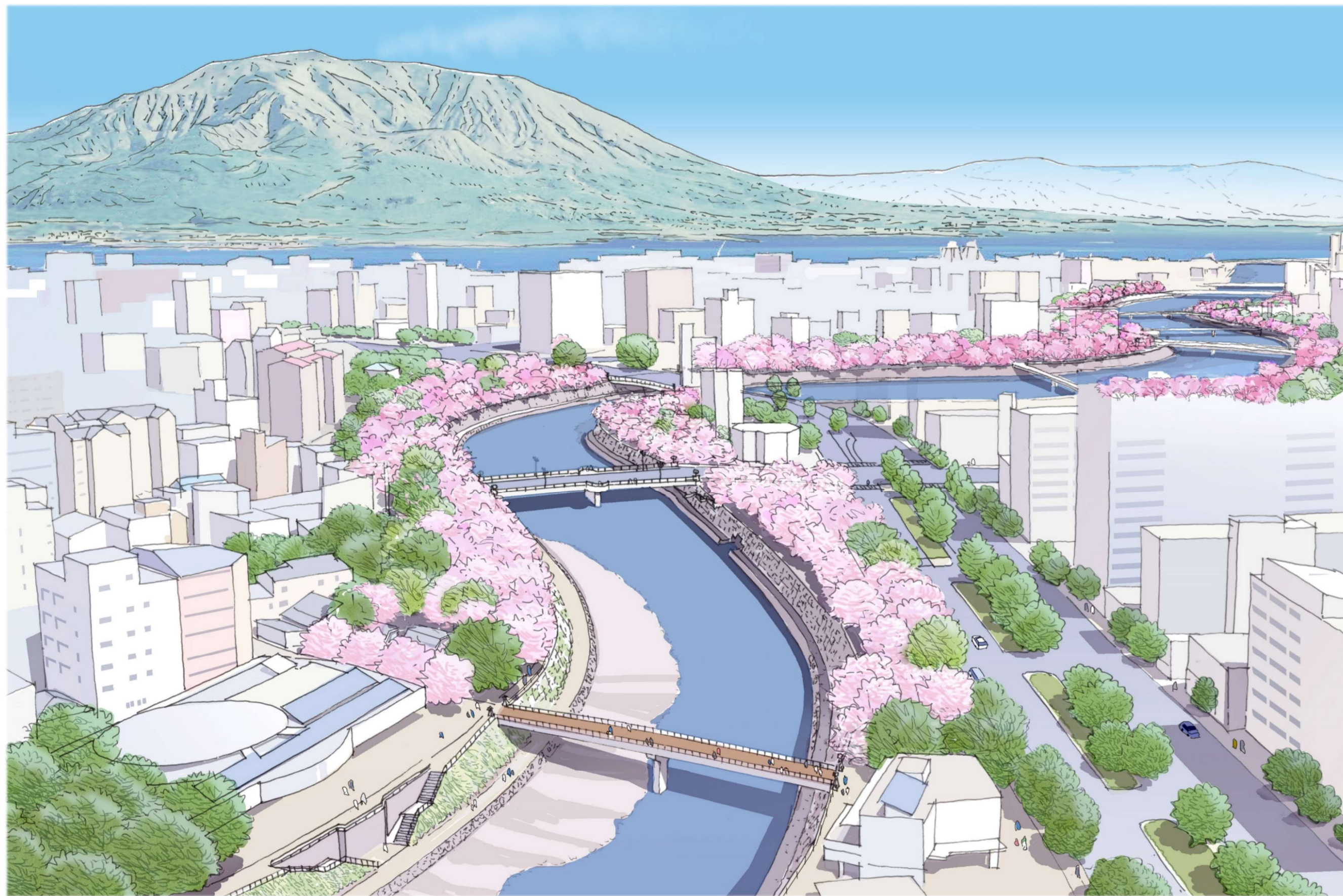
イメージパースVI



イメージパースVII



4-4 鳥瞰パース



第5章 再整備のスケジュール

本プロジェクトの上位計画の目標年度を踏まえ、令和13年度までの全面供用開始を目指し、以下のスケジュールに沿って、ゾーンごとに整備を進めていきます。

なお、一部のゾーンについては、民間活力の導入に関する検討などに一定期間を要することから、速やかに事業着手が可能なゾーンから順次整備を進めていきます。

なお、本スケジュールは、概ねの見通しを示しているものであり、今後の財政状況や進捗等を踏まえ、適宜見直しを行うこととします。

ゾーン名	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度
さくら彩る 魅力アップゾーン	測量・基本設計	実施設計	植栽・基盤等工事	—	—	—
さくらとみどりの 憩いゾーン	測量・基本設計	—	実施設計	植栽・基盤等工事	—	—
さくら舞う にぎわい交流ゾーン	測量・基本設計	—	—	実施設計	植栽・基盤等工事	—
さくらと遊びの わくわくゾーン	測量・基本設計	—	—	実施設計	植栽・基盤等工事	—

第6章 今後の展開

千本桜を維持・保全するとともに、甲突川河畔や千本桜への愛着醸成のほか、周辺のにぎわい拠点間との回遊性向上を図るため、再整備と合わせて展開すべき主な取組を、以下に示します。

■千本桜を育み、守り続ける仕組みづくり

(1)千本桜保全管理計画の作成

千本桜を適切な環境下で育み、次世代へ引き継ぐため、専門機関と連携を図り、桜の維持・保全に必要な剪定方法や病害虫対策、植栽基盤の改善方法、保全に向けた年次管理計画等を定め、本市の気候・風土や甲突川河畔の特性に適した、本市独自の「千本桜保全管理計画」の作成を検討します。



機器を使った樹木診断の様子

(2)持続可能な保全管理体制の構築、財源確保への取組

今後、少子高齢化や人口減少等により、人材や財源の不足が予想される中、持続的な保全管理を行っていくためには、行政だけでなく、市民や事業者など様々な主体と連携し、地域との協働による保全管理の体制を構築するとともに、保全管理に係る財源の確保が必要だと考えます。

持続的な保全管理への取組として、樹木の維持管理や緑地の除草・清掃などを行う「ボランティア活動」のほか、地域の方々と連携し、日常的に桜を見守り、保全活動を行う「桜守活動」など、地域で気軽に参画できる仕組みづくりを検討します。

また、財源確保への取組として、ガバメントクラウドファンディングやふるさと納税制度の活用、桜オーナー制度の確立など、多様な方法による財源確保に向けた体制づくりを検討します。



地域と連携した維持管理活動の様子

■千本桜や甲突川河畔に対する愛着醸成への取組

(1)千本桜に対する愛着醸成の取組

地域住民が日常的に桜に関わり、保全活動を行う「桜守活動」の推進に加え、専門機関や関係機関との連携による桜のワークショップの開催、地元企業や商店街など周辺地域との協働による桜のイベントの開催等を検討し、千本桜に関する普及啓発に努めます。

また、SNSやテレビなどのマスメディアを活用し、千本桜の歴史や保全活動等の情報を広く発信することで、千本桜への興味・関心を高め、地域全体で千本桜を守っていく意識向上を図ります。

(2)甲突川河畔に対する愛着醸成の取組

桜の名所としての魅力に加え、緑に包まれた憩い空間や子どもたちが楽しめる遊び場空間等を維持し続けるとともに、関係機関や事業者等と連携し、オープンスペースを活用したイベントの開催や、水辺空間を活かした様々なアクティビティの実施など、甲突川河畔の利用促進に向けた普及活動を推進し、市民が日常的に訪れたい場所として、更なる愛着の醸成を図ります。



ワークショップの様子

■甲突川河畔を軸とした回遊性の向上、周辺環境への波及

再整備後の甲突川河畔の利用促進に向け、関係機関や事業者等と連携しながら、SNS や地域メディア等を活用し、甲突川河畔の魅力を市内外に積極的に発信するなど、多様なプロモーションを展開することで、多くの観光客を誘致し、甲突川河畔のにぎわい創出を図ります。

また、PPPやPark-PFIなど民間活力の導入を積極的に検討し、民間事業者の柔軟な発想やアイデアを活かした取組を推進し、鹿児島市のシンボル空間としての価値を高め、甲突川河畔を軸に、「鹿児島中央駅地区」や「いづろ・天文館地区」などの各にぎわい拠点間を含む周囲とのさらなる回遊性の向上を図ります。

参考資料（用語解説）

アルファ
ベット

Park-PFI（P20）

（Park-Private Finance Initiative）

公園に民間の優良な投資を誘導し、公園管理者の財政負担を軽減しつつ、公園の質の向上、利用者の利便性の向上等を図る新たな整備・管理手法のこと。

PPP（P20）

（Public Private Partnership）

公共施設等の建設、維持管理、運営等を行政と民間が連携して行うことにより、民間の創意工夫等を活用し、財政資金の効率的使用や行政の効率化等を図るもの。

SUP（P4）

（Stand Up Paddleboard）

サーフボードより少し大きいボードの上に立ち、パドルを漕いで水面を進むハワイ発祥のスポーツのこと。

あ行

インクルーシブな遊具（P21）

障がいの有無や国籍などに関わらず、誰もが一緒に遊べる遊具のこと。

か行

近隣公園（P4）

主として近隣に居住する者の利用に供することを目的とする公園のこと。1箇所当たり面積2haを標準として配置する。

ガバメントクラウドファンディング

（P22）

自治体が抱える問題解決等のため、寄附金の使い道を具体的にプロジェクト化し、そのプロジェクトに共感した方々から寄附を募る仕組みのこと。

グリーンインフラ（P21）

自然環境が有する機能を社会における様々な課題解決に活用しようとする考え方。

根系誘導耐圧基盤（P19）

舗装下でも樹木の根の健全な生育を可能にする植栽基盤のこと。

さ行

桜オーナー制度（P22）

自治体等が管理する桜の木に対して、個人や団体が「オーナー」として、桜の植栽等に要する費用の一部を負担し、桜の成長を見守る制度のこと。

自治体等によって、制度内容は異なる。

桜守活動（P15）

桜の維持・保全を目的として、地域住民が施肥や清掃、病害虫対策などを行うボランティア活動のこと。

樹木診断（P5）

樹木の健全度等を調査・診断すること。

た行

地区公園（P4）

主として徒歩圏内に居住する者の利用に供することを目的とする公園のこと。1箇所当たり面積4haを標準として配置する。

てんぐ巣病（P11）

カビの一種が原因で発生する伝染病で、感染すると枝が異常に発生して、花が咲かなくなる病気のこと。

透水性舗装（P21）

透水性を有する材料を使用して、雨水を浸透させる構造をした舗装のこと。

な行

根上がり（P5）

生長した樹木の根が地上に露出し、歩道の舗装や縁石の持ち上げ等が発生すること。

は行

ヒートアイランド現象（P21）

地表面被覆の人工化(アスファルト舗装など)等の影響で、都市部の気温が郊外と比較し高くなる現象のこと。

被圧（P12）

周囲の優勢な樹木に圧迫されること。圧迫により、生育不良などが引き起こされる。

腐朽（P5）

木材腐朽菌が樹木の根腐れ部分や傷口から入り込み、樹木を腐らせること。

ま行

まちかどコメンテーター（P9）

市民の方々に市政への関心を持ってもらうとともに、市民の意見や提言を把握して市政運営の参考とするアンケート調査のこと。

間引き（P19）

樹木の密度管理のために行う樹木の伐採作業のこと。

マルチング（P24）

踏圧や水分蒸発の防止等のため、樹木の根元をマルチとよばれる資材の層で覆うこと。

緑の基本計画（P2）

緑に関する都市の総合的な計画のこと。市町村が緑豊かな快適で個性的な都市づくりを進めるにあたり、地域の自然的、社会的条件等を十分に勘案しつつ創意工夫のもとに策定されるもの。

ら行

レインガーデン(雨庭)（P21）

地上に降った雨水を下水道に直接放流することなく一時的に貯留し、ゆっくりと地中に浸透させる構造を持った植栽空間のこと。

緑陰（P4）

植物によって作られる日陰のこと。

老木化（P1）

樹木が年老いること。老木とは、「何年以上生きた木」という決まりはないが、一般的には、盛りを過ぎた木の呼称。